

## 東日本大震災から 10 年を迎えて

2021 年 3 月 11 日

NPO 宮城県セーリング連盟

理事長 庄司一夫



2011 年 3 月 11 日 14 時 46 分、牡鹿半島の東南東 130km、深さ 24km を震源とするマグニチュード 9.0 の巨大地震が発生してから 10 年が経過します。甚大な被害をもたらした東日本大震災で犠牲になられた方々に、あらためて哀悼の意を表します。

地震の発生時には、宮城県名取市閑上フィッシャリーナ、岩手県リアスハーバー宮古、茨城県那珂湊港において、大学、高校のヨット部員が練習をしておりました。機敏な判断と行動、そして現地にいた指導者や関係者の支援によって、一人の犠牲者も出すことなく無事に避難出来たことに心より感謝しております。

しかしながら、セーリング拠点と艇庫は大破し、ヨット・救助艇・セールや各種備品の大半も流失と被害は甚大で、かつヨット部員の身内の方々にも大きな犠牲が出ました。

震災直後から、JSAF をはじめ国内はもちろんのこと、世界中のセーラーからセーリング再開に向けた温かい励ましと支援物資が届きました。多くの励ましをエネルギーとして、東北セーリング連盟も各県連が一致協力して震災復興と競技再開に取り組みました。お蔭様で、宮古市から由利本荘市に急遽会場を変更してインターハイを開催出来ました。さらに山口県光市での国体や全日本インカレ等への出場と、参加困難と思われた各種レースへ出場を実現し、セーリング活動を継続している被災地セーラーの姿を御支援を頂いた皆様にお見せするとともに、直接御礼を述べる機会を得ることが出来ました。

宮城県内の活動拠点も復興に取り組み、気仙沼、石巻、松島、七ヶ浜、閑上と、各地のセーリング活動が復活しました。これも、各校の努力、OB の方々と各地域の方々の御理解と御支援の賜物と感謝申し上げます。

宮城県セーリング連盟 (MySAF) の運営体制も、復興への取り組みを加速するために大きく変化してきました。具体的には、2013 年 1 月 19 日に NPO 法人化し、2019 年 4 月 1 日からは閑上ヨットハーバーの指定管理者として新たな事業を開始しております。

去年は、新型コロナウイルス感染症が世界的に猛威を振るい、東京五輪も延期される等、社会全体に大きな制約をもたらしましたが、MySAF では感染対策に取り組み、各種レース開催や普及活動を実施することが出来ました。

東日本大震災から 10 年という節目を迎えますが、これからも MySAF は、セーリングという自然を体感出来る素晴らしいスポーツを未来に繋げるために、会員の皆様そして地域の方々と共に協力しながら、災害への備えを怠らず安全確保を大前提として事業に取り組んでまいります。

【閑上ヨットハーバーの復活経過】

○再建された「閑上ヨットハーバー」全景 2019.05.



○ 3.11.直後の「閑上フィッシャリーナ」の被災状況 2013.04.



○「閑上ヨットハーバー」プレハブ管理棟・半量整地中でのオープンへ 2018.04.



○プレハブ管理棟での初レース「北日本オープン」の開催と安全祈願 18.05.24.



○本設の管理棟建設状況 19.01.20.



○「関上ヨットハーバー」管理棟竣工 19.04.01.



以上